

## 全国連合小学校長会第239回理事会報告

副会長 紺野元樹  
(比布町立中央小学校)

11月10日に金沢市で開催された、第239回全国連合小学校長会理事会について報告いたします。

### 【全連小会長あいさつ】

冒頭のあいさつで大学会長は、「各地の校長会役員の方々と話をすると、校長が学校の外に出なくなった、会議に来てもすぐ帰りたがる、なぜこんな集まりをするのかという人がいるという声を聞く。校長が本当にそれでよいのでしょうか。幅広く情報を集めて、学校経営に生かしていくのが校長の役目であって、決して学校王国になってはいけない。とにかく広い視野で、いろいろなことを吸収して目の前の教育活動を一つ一つ改善していく。もっともっとみんなで集まって、いろいろな話をしたいと思う。」と話されました。

次に、会長が危惧されていることとして、全国的に不登校が増加している状況をあげられました。文科省の令和2年度問題行動調査によると、小学校の不登校の出現率が1%で、5年前の2.5倍になっているとのこと。特に低学年が増加傾向だそうです。また、全国学力・学習状況調査で、「学校が楽しい」と答えた児童が前回より6ポイント下がっています。この状況に、大学会長は、「様々な状況があるにせよ、子どもたちが楽しいという実感をもてていないことを重い事態だと受け止めなければならない。目を逸らさずに真剣に考えていかなければならないと思う。さらに、先生たちに『仕事・学校が楽しいか』という質問をしたら、『楽しい』と回答する割合がぐっと減っているのではないかという心配をしている。あまりにも制約が多くて、閉塞感で息が詰まりそうな現状である。しかし、先生が元気で学校に通わなければ、楽しい学校は作れない。学校でなければできないことを、何かの状況のせいにして、やらないことにしただとか、そして、そのことで子どもが学校が楽しいと実感できなくなっているとしたならば、それは学校教育の危機だと考える。もう一度目の前の教員と向き合って、子どもをしっかりと見つめて、魅力ある学校作りを進めていきたい。」と話されました。

### 【報告事項】

次に、報告事項についてです。

#### 〈全連小島根大会〉

1点目、令和4年度全連小研究協議会島根大会は、参加者を当初予定の半分の1100名程度に縮小して開催したいとのことでした。

#### 〈要望活動〉

2点目、要望活動についてです。7月8日に文科省、財務省等に対して行った「小学校教育の充実に関する文教施策並びに予算について」、10月7日に文科省に提出した「新たな新型コロナウイルス感染が続く中での小学校における対応についての要望書」、10月29日に文科省に提出した「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの実現に向けて(審議まとめ案)に関する意見書」についての説明がありました。要望書では、人的及び物的支援の拡充、各学校及び家庭の通信環境整備への支援、新型コロナウイルスに関して、新たな基準やガイドライン等の見直しなどをあげています。「審議まとめ案」に関する意見書では、教員免許更新制の発展的

解消については、一定の評価をするものの、「今後、新たな研修体系を構築する際に、『更新制』と同様に、研修受講の時間数や内容を決め、その研修については悉皆で受講させるような制度設計にするのであれば、教師にとって『やらされている感』があり、自己の能力を高めるための意欲的な研修にならないと考える。また、『新たな教師の学び』を実現するには、『学びを行う時間の確保』も重要である。研修を行う時間をなかなか確保できない現状があるため、審議のまとめ案の中に『学びの時間の確保』についても言及していただきたい。」などが記されました。

#### 〈岩手県沿岸被災地区の現状と課題〉

続いて、岩手県沿岸被災地区の現状と課題について、岩手県小学校長会より報告がありました。平成30年に県内23校の被災校すべての改修・新築工事が終了したが、児童数は著しく減少していること、コミュニティの形成が難しい地域があること、多くの教職員が入れ替わり、被災当時の状況を学ぶ機会を設定する必要があること、自身が被災した教職員もおり、引き続き配慮が必要なこと、復興加配の減員やスクールカウンセラーの配置減などで児童の支援に影響が出ていることなどについて話されました。

#### 【議事】

議事では、令和5年度に予定されている全連小75周年記念事業について提案があり、実行委員会の設置や特別会計からの事業資金支出について協議し、提案通り承認されました。

#### 【情報交換】

##### 〈全連小石川大会〉

情報交換では、はじめに全連小研究協議会石川大会の誌上発表について、実行委員会より報告がありました。26本の研究発表資料のうち、17本にコロナ禍の対応についての記述があったこと、会期中止によりグループ討議ができなかったため、全参加者に選択・記述アンケートを実施し、それをデータ化・グラフ化し、分科会協議会を実施できたことなどについての説明がありました。また、誌上発表に関わるデータを送付しているの、学校経営に活用してほしいとのことでした。

##### 〈魅力ある学校づくりについて～グループ討議〉

次に、「魅力ある学校づくりについて～教員の養成・採用・研修から考える」をテーマにグループ討議が行われました。教員採用選考の倍率が低下していること、「魅力ある学校づくり」を考えたとき、人材育成は喫緊の課題である、採用前の「養成」から考えていく必要がある、大学との連携が急務である、「採用」においては、いかに教職の魅力を発信し、採用倍率を上げていくとともに、人間性豊かな人材を採用できるような制度設計も必要である、教員としての資質・能力を磨き、専門性を高めていくための研修の在り方を考えていくことが必要であるという基調提案に基づき、話し合いを行いました。私のグループは、佐賀、三重、京都、宮崎、東京で、ほとんどの地区で選考倍率の低下や教員としての資質の二極化が進んでいるといった同じ悩みを抱えていました。養成・採用面では、インターンシップで大学生を活用している、大学と県教委が連携している、教師塾（教員を目指す学生等の講座）の設置などが効果的だという意見もありました。研修面では、若い先生を孤立させないメンター制の導入で成果を上げているという報告もありました。

以上で、第239回全国連合小学校長会理事会の報告といたします。